

和
同
丁
卯
年
刊

風飾

柳多留

三才編

1147
34



門	へ	9
番	1147	
巻	34	



今年二代の川柳親の柳の根を續て
 角力のぶら勺十會成候一其勺とや
 拔華一々三十五篇のあ勺集たり
 ぬ夫濁小目けり五柳先生も勺ふ
 年の有賊柳在士も豈此杉の産を
 考ふべきをけちまんの一トおやかひを
 元録乃海りもとく及の人の柳

新ハ西郊の通り白之柳よ〜
並する土手口八町の柳京も古きむしを
ぬ彩し〜檜下夕町山の手柳ら〜先
大江戸は奇角カ今共柳の下ら〜
い〜ワが俳風残志〜いざ〜ぬや〜

又此之實初種

小石川の
琴我

こ〜部

廣き車一は庭小御所の空ひ斗り い〜に連 是未
出陳小園東鏡ハのほり坂 麻子連 丸珍
玉神河を〜〜只今とも〜〜 ハ子連 一口
身の志賀と隠し旅初の花とよみ 花子連 御雨
誰もふみた色深〜〜水やふらは 水子連 珠川
六波羅の昔余年とび〜よのせ 昔子連 呂能
だ〜〜〜〜〜音の〜の〜 音子連 山
冬乃庭〜らば〜〜妙玉寺 妙子連 玉京

知
同
知
同

見才乃つがしん七極の事でも来ル 杜る 番員

見世園キ藤京で門ノ一布をか 初日、 留人

天定ノ女く書て出ス月の海 名来、 雨夕

天帝ノ小所ノ大キか福 名来、 孫川

女の妻と返 名来、 是亦

若後小ニテ結庄ハ大キ 麻る、 産致

首尾利ガ 名来、 核好

松乃内 名来、 孫川

新
北
五
一

脇の借 納豆箱とおつ 赤子、 如花

吉俣 名来、 産致

堂 名来、 王京

負車 名来、 榊水

今 名来、 山

葉 名来、 竹子

洞 名来、 孫川

子 名来、 同

子 名来、 同

中
一
知

紅白
丁
...

玉の

文珠の智恵で祝音を川上玉の 孤雲

根のくさくさ着板と花を玉の 一文

姑うさおそおんがした娘と玉の 玉京

松色と鞘鳴りのまら玉の 玉浦

赤心つとつと思ふ乃ハ之安玉の 玉川

牛解を巻付てまは下戸の首玉の 三雲

まつ黒む甘房よ亭と赤玉の 花夕

おもひよの元いくらぬ玉の 花夕

玉の

亭とあまはほ見入るや玉の 玉流

荒おまた友ハ終てら玉の 玉川

平水の慈具うら玉の 玉雲

出雲とて縁の縁玉の 木質

今も時や遠く玉の 春助

むら濱と玉の 玉流

みりや玉の 玉川

料理者玉の 玉川

あし部

ら傷うらうい合とやあつて机すなり 玉垣、 其流

らう丸ハ坊と矢丸ハむすえなり 風丸、 鯉角

ハ胡よらうい女房もあそこのら さくあ、 カタル

女馬士馬うらうあてらういする 麻子、 燕子

牡丹候の縁候もくさうのゆ さくあ、 玉素

不ら洗貝とあ海人声がはとせり 若葉、 砾川

室ハはんとびんもあおさなる さくあ、 岡

い福むりのや女ハ魚くむさうよ 青亀、 眉長

竹世五ノ三

棒組やスエららけぐせく さくあ、 砾川

直しそのおら海か岸のふら海なり 麻子、 寧く

川馬でら門と出らあらからあ 名才、 さい々

卵と碎つてあかりとさるあつる 麻子、 雑文

笑人てんだうよりと徳筆をのせたる 杜あ、 查貞

綿よ色してさく物とかがつけ 麻子、 高下

花うらう下女鼻息して吹ち 玉垣、 修成

あきまは子振合とあてまら合 風丸、 研水

知日
知日
知日

尻といひ了る方居角カ有るなり
源川
 きんむへ水向をすむらびら
楽備
 長層毛満の山河角とて
鳥仁

持飛書

兼とあり我らわきまは津彼く
津川
 彌高うお来りし自出多き御凱誅
曉香
 有衣のしる兼かくりり御吉例
孫川
 此役智八所ゆくと三ツチ
全
 天々名所流しは冬時平之
全
 川流ハ妙川くくくくく作お入
九龍
 辰の名成謡此やあま押へ
侍人
 六文を歌六もらんき水味子
谷水

和
 日
 下
 丁
 子
 子
 子

和
丁
...

かんぎやのよりよ西行なまき

かんぎや

西行

似せ候と二十六年早馬田おー

似せ候

早馬田

協の僧一少くそりこそり見入

協の僧

砂利場うう主従二騎とありあふ

砂利場

主従

おしりしりせりふりせり

おしり

雨風のあふ思ふ候おうーしり

雨風

思ふ

よらゆき清と名成りありしり

よらゆき

清

一斤のあふりもいん山焼寺

一斤

山焼寺

併世五ノ六

雪の風乃かこけけは免たり

雪の風

乃か

麻かろく猶も及び春日よ

麻か

猶も

大馬乃親お儀つりしり

大馬

乃親

あふハあふりおと母一り也き

あふ

ハあふ

女市買のさ川さうたな母河の子

女市

買の

大さうまき子も産まおんちき

大さう

まき

いれりいれり酒も候しり

いれり

いれり

是平八里川さふあ馬さる男

是平

八里

...

糸一節

や丸の毛尻ら〜小茶をふきり

床花ハス百疋さ〜件人志高き

本首履のたゆ〜ゆ成和国たき

かた心奪か〜心志高きと下〜きあり

さい角〜〜指糸の〜比ち〜と出馬

ま子たて〜と〜に〜りまく〜運ぶ〜不

〜〜〜お〜人見色ハ昔所〜換〜

飯の内と〜湯片みん〜〜〜

名不〜

こイタ

あふら心

珠川

吹唐

玉京

玉京

吹唐

玉京

吹唐

玉京

吹唐

玉京

所此五七

外面女侍〜内あ〜ん〜父の車

旅と見ぬ日ハ旅のま〜〜〜とき

旅のま〜〜〜〜〜〜〜〜

三味せん茶〜〜〜〜たの〜ん〜たの

鼎を〜ぬけて〜色入食〜や〜外料〜

や〜生今〜約〜不〜おき〜故〜と〜あ〜く〜香

振袖と〜是〜せ〜整〜と〜こ〜う〜み〜せ〜う〜

昔跡ハ首〜お言ハ〜是〜と〜う〜

ハ〜

一〜

口

名不〜

有幸

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

珠川

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

賤丸

和同
丁
卯
年
正月
廿
二
日

此其んとは妻たらまら見とけり
今より賣家ある者初してけり

本賀
孫川

川苗ふまらふ味せん目は也
もはかむの塚はひとくかいつけり

辰能
柳雨

初よりと下女満げか
申たふひふちやのほり成たふも

孫川
今

色さるハ鬘ふ所のしとせと及さる
油じー一すく遠ひさる村き君

和里
梅舎

どしし和尚衣成りて足と巻ひ
屋川は心と女房の影ふ式貫貸し

無字
志夕

親ふ子のあふ隠して後家とみ
他了して下女ニ之恨さるく見ん

香貞
梅舎

かこきりうすむと娘成るまにか
入おを借りうふあま百とせ

侍人
神音

アんの玉どろちのあまきぬり
あつほりたふ心のそふ人たり

神音
孫川

長局さま川 成老を幸へん
 下々の續全くハ屋のありせん
 吹唐 燕子

上ノ部

梶の以室所 近く御所 建
 九堂ハ小治く どのをふき
 御上使ハ又十 三次御根成の
 大本戸ハもいめた ころをき馬
 さん就の休存成 石ころ堀此あり
 仕合ハ三世の縁成 二世ふまを
 何され仲よもきハ 四十七なり
 東北の月々ハ 小者あつたひ

初津連 市東 其流 知世 又メ
 八重垣 柳声 柳水 松山 如雀

和同 丁卯 卯年

和同
丁卯
卯

花鏡ハ桐よつこきぬは月お夜サ
勝立、我まきくひどく。は無の鳥

玉あ、はまてかふるやとほ不精

一ッお若衆ク、若衆のまハニワ

こく入ふま、舟のまうすきこもあ

達子、あよつ盛あまの九後んや

むご昔以州く、麻のまくとけり

舟のまのこまて、信鳥かまてま

麻子

慶鳥

名木

こい女

つるあ

柳雨

こらふ

孫川

えら若

船き

玉ま

ほま

志夕

さくま

青鳥

四季折く、のたこむまは母ま

優物く、へほんとく、はさき

鶴門は會、なふき、高祖ま

ぬた、く、の地、り、松、北、小、見、く

公、家、要、の、あ、ま、尊、玉、の、實、ま、師

院、平、ハ、繪、馬、を、う、ら、う、後、宿、か、り

白、糸、天、子、の、医、の、え、祖、く、思、入

時、ら、ま、る、か、川、ハ、其、才、の、は、高、り

まろ

綿子

杜若

番貝

まろ

松成

まろ

表巻坊

まろ

我

まろ

青鳥

まろ

子

表巻坊

まろ

我

まろ

青鳥

まろ

子

表巻坊

まろ

我

中
部

さつ まつりいせんふよ 禮をまゐりこころ
 史り見せりそふらふ 禮をまゐり
 地をさふ首尾分違ふ 礼をまゐり
 氏を坊のつらもまゐり 禮をまゐり
 おそく物さつ居てふこまの 礼をまゐり
 栗松のよふよ松永ま 礼をまゐり
 仇の火成子息をさく 禮をまゐり
 誤し物さちまつかひの 早ひ事

まつりいせん
 さつ
 史り見せり
 地をさふ
 氏を坊の
 おそく物
 栗松のよ
 仇の火成
 誤し物さ
 まつかひ
 早ひ事

和歌部

新 櫻へまきりたん 穴ニラニワ
 辻 帯流抱いて 片倉あをぬき
 月 玉みちり 散る 枝の連う 出来
 田 何 遠海り 身あふき ありふ
 禮 用をいそき 團て 田川へ
 紅 葉とみ 娘の 糸と 祝文を
 西 次をたまき 流る けり 物
 いんの子へ 一と 禮をまゐり

うの子
 新 櫻丸
 辻 帯流
 月 玉みちり
 田 何 遠海
 禮 用をいそ
 紅 葉とみ
 西 次をたま
 いんの子へ

二河より二月十日ひん入ぬ日
 皇帝より工下のあやうをたたくる
 多々度ひ改訂の風雅な後家あり
 奥の分の首ぬきやあやう婦此声
 はんばうの只五ぬれ月半り
 善そしと久そし代か三か
 むごころの島あやうらてなま持々
 茶前々婦何いんたあやう川あはれ

三河
 竹麦
 眉長
 孫川
 雨夕
 柳子
 孤雲
 赤輝
 孫川

吹くさうの僕くさうらこ車きん出来
 ソの善信あんなやうやくと地歌出来
 赤儀を中さうとせあやうてはり
 信と本歌つうはしとあやうり後と善の
 大玉のあやうと心籠りハ和尚作ッ
 きとく流でもまじりぬれ新造の子
 田楽子子々鏡鏡ハ味増成育々
 多々度度度度桂馬のあやうと

長振
 里家
 赤仁
 子
 殿丸
 孫川
 志久
 右本
 二イハ
 藤号
 藤号
 長盛坊

小葉の子が草の細く志をまき
疾風の杖かつしつや川うらま
けり事いふそ物んであつは母
波一舟もたきよはてあつしめ
後さんさ喰ってさん志よのちうら
小舟物も喰下たふえうたうり
居いさん二姉はまに飯を喰ひ
障あり杯と鹿杖切の女い物者

ほらら
孫川
かき
葉研
の子
牛賀
玉うき
孤雲
けらら
孫川
名木
雨父
孫川
名木
雨父

骨はらぎぞくとうらうさ貸こてきり
おきろ金おきろきよふよふうかん
たゆめ者武百てはのふ屋いやく
今うい何成やくあ屋き又あ出
中さる菊のうらふ又利てり陰天窓
小波小春をさる多折りたひひと
切差しをくまておこし胃そ喰
あむりうとせんぬんごし我をさる

ほらら
孫川
かき
葉研
の子
牛賀
玉うき
孤雲
けらら
孫川
名木
雨父
孫川
名木
雨父

和
丁
...

毛鳳冠女房かろつーせきせり
 中て字のよきそくあきのふよ女うめせ
 湯の中てゆり鹿の玉きき着へ浮き
 一糸其意地けうひさるけよがり神

この子
 翠衣
 へらば
 青狸
 ほよらぬ
 碓川
 こころよ
 孤方

上ノ部

新田山てり糸の色も乳よせも
 時那ノ方とくりそくも孝の内
 中浜柿とこしり乳見書
 白ふをくふの事先こまひり
 には八文字て系物も江戸もちり
 姫皇帝わかふよ氏と若しめり
 新故のこ足こへる十二足
 八千の枝葉とちりも蘭の音

糸子
 玉衣
 玉垣
 さくしん
 さくしん
 麻子
 喜多病
 くらり
 箕山
 うのこ
 花々
 さくしん
 玉衣
 さくしん
 只存

神井五十二

一又の目了男やあめり百人
 法神武志うぶよのうへもとま
 傾城ま志づくまそくうま
 宍初まの出らんよ入る糖州
 渡世祿ふゆ力又娘とびる
 繁情よ通夜とておのわさ
 唄でたこの松は清巻くま
 本像ののびりのゆるり月形

名本
 松明
 喜海
 孫川
 孤舟
 孫川
 玉妻
 松成
 百夕

一お汁の子こど地仕まのト美なり
 中らうとかもや丸茶と出ての
 馬麻ふ事こめい女ハ日麻なり
 石垣とくぢうて何さくうか
 天蓋を破うして色と和あ
 大一座なんでもいハ正親なり
 えめらる花よあめゆび九中
 牡丹候いまが又一人を

玉妻
 孫川
 玉妻
 喜海
 牛糞
 孫川
 和里
 玉妻

知
 知
 知

弟部

源九郎その月とつていそつとち

さいづちとまきいづーまたがいく

實重の討死をい 後おはくると

あちあち八千とけいこおやあつと

何とふなんとえんたがあぢと出い

そていそつちあつとあつとあつと

うまうやうふ出てり 彦政の坊

えちさかあんのあがまやあつとあつと

うのこ

まき

さう

あつ

うのこ

玉葉

さう

孫川

うのこ

あぢ

さう

あぢ

うのこ

馬橋

さう

アイダ

うのこ

一更

ハま

あぢ

うのこ

あぢ

さう

孫川

うのこ

あぢ

さう

あぢ

うのこ

一更

さう

孫川

はと
和
白
和
白
和
白

いひより戸板のかもとあつとあぢ
生後のもやあつとあぢいあつと
いあつとあぢあつとあぢあつと
あかのもつあつとあぢあつと
あぢあつとあぢあつとあぢあつと
あぢあつとあぢあつとあぢあつと
あぢあつとあぢあつとあぢあつと
あぢあつとあぢあつとあぢあつと
あぢあつとあぢあつとあぢあつと
あぢあつとあぢあつとあぢあつと

ち一枚

ほと 和同 丁卯 正月 廿二日 辰 卯

下の口よりくもくとのとま
む祢ちと枚までたく信流よの
是より又毒で何るまひ物ありしむ
り所をさぶらむけつのはたさうま

ちのこ
振神
まのこ
和泰
孫川

いひより戸板のかもとおち屋がし
生徒のまは是思ひいらいのこ
いやりしい下女まなをさうしうれ
志かのまのつれ危うよとよまん幸
鬼よりか持をきぶのにまし
きん玉のやまむほなれちん二切
人なりよ座臥のえるはまむら
やまよりいふ月彼風を激やがま

ちのこ
一更
孫川
孫川
孫川
孫川
孫川
孫川

下の口よりくもくともよき
 振神
 むねちと故まてたく信流よの
 まさ
 是う又毒でりるまひ物あしくむ
 和泰
 あり所のまじりてけつのがふらるる

上ノ部

弓筆の如とのこーては凱陣
 シクト
 百首おもひ有暇の月むらり
 砥川
 伊予郡五城改持のまけ也
 さくら木
 中務いれり毒いりさめる車取
 玉章
 和氣のり勅使い清く奏まよー
 笠山
 三日にもはらして又日ハ家根上膏
 丸雲
 三ッひびてかーへ七人荒ぶさ果
 柳石
 仲ノ所 桃の夫したるとうへ
 うのこ
 まさ

地を悪かといひかと思はるる
古鳥

又、州ハ昔ハ以て名でるにあり
雲霧

めを幸ハ小町神家流だより
玉章

二悔かいをテハ武士の腹といひ
雲霧

白石の中かまて門とせはする
雲霧

うア〜〜さ大のとうける網海り
玉章

お生ハ昔ハ〜年ハく〜した〜
幸小口

関〜ハ禿〜耳とさう〜
孫川

後にはいよとよふ〜ハ安房守
玉章

是者の小石〜ハ〜ハ三云日
狐声

後〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜
振袖

たいめん〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜
女雀

わうて見吹〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜
カタル

つ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜
ころ抱

素ととる〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜
は之忌

い〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ〜
取夕

中



まいこくへ 禿ふう 死持てうけ あうらい 孫川

娘うへと 息子 勢地よりりける まうら 志嘉

あびを なめていりありこむ 枕紙 さうら 玉衣

かこりしへ 目眩せんげと 急使 うたつこ 山

大そくが 丸にげりけらら 徐福 むうさ 孤雲

あうあつて 六字と七字 喧嘩つ この 夜香

竹るハ 彌宗を まるくむらうま 名本 西夕

へんぺこし一 馬と 寺上人を 急佛 あうらい 孫川

わうちや 茶揚枝や やたがいてま まうら 和恭

猿回し一ト 鞆あし 礼と 三味 うら 禱香

せうしんと すらぐニ 夜をひまふくしぬ この 是乐

亀井戸いからう 堂まき ちごまのり この 勢成

あひねふしきの 髪とえて 富と 實 まうら 善徳

初うを 言うくハ かなと かりぬあり まうら 赤色の

巻く 抱いむ 地うごの びくくさの まうら カタル

葬礼を 入こし 又まの 回向院 この 素直

源左馬守兼光之孫入道兼光

は人なりては申す所のむとゆく

喜り歌古里まふく帰るなり

伴筆やう花をよみてたゞこころんとつめ

琴の仇をたぬまゝとてうむ出づ

歌中とめぐりて歌又巡る

新田女世より以よかきそ打た

かぢりまんまりとだまうてそおくれ

名本

後と元来千一三本

祢りけり方小僧ありけえたすまら

系系まんきけうようまひれのまろは面う

是こそがめつみや吹うまへもとく

年のかんちるかんま志海ひなり

大約とて西朝ぐびくありしは

からたようかして下女はよはる

けちんまし下女ハありしはとまげ

やうん

名本

名本

名本

名本

名本

名本

名本

長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や
長崎いんやせり(かいて)や

上二部

点のうら人のなみ水と出状上 春約
山一彩浅をまく仰上 林上 ぬり
えんせりさ枝のゆり一浪色 玉章
一子すき玉一助玄とあづべり 玉章
お妾の森耳一水ハ玉 家老 孫川
呉の園て月ぬきの男伍子昏也 玉章
店うけ一口と花がめり盃が母 孫川
手の皮と門口でむく異字又也 玉章

ういぐーさきぬいまでしとらま さくら木

柳子妃ハ馬控場にてさいごなり うのこ

右大納金といふをほむす さくら木

清曹子ナに人めふ終をきり うのこ

四ッ手かご魯の昌平も立テ協 さくら木

かんけい又落入り うのこ

月一さハ八丁目ごと さくら木

張るも土橋へつて二度や うのこ

極木や(資)物えんなる さくら木

武内さうのけぢの うのこ

江戸町春在言と さくら木

もつて乃鬼 うのこ

中 さくら木

徳持ハ うのこ

上 さくら木

と うのこ

老若の交代 さくら木

玉ま

玉ま

玉ま

玉ま

喜流

喜流

菱裏

喜流

玉ま

吹布

吹布

菱裏

魚文

志々

喜流

喜流

喜流

渡辺いよ持めさたがななくこのそ うきうき 魚欠

段日前小ゆびの先へちりとのせ ちり 斗丸

座敷穿あきよ物そか か 孫川

びりてあひ日るのちよまて居ん うの 如雀

人いづくんえかくさんやほぶのよ うきうき 香貞

まぐらげの儀 し 小あ し 下知 うきうき 吹唐

臭酸とわぶのいづく不産さ やうい 孫川

いひよへけり い つけてあまが事 うきうき 孫地

猪田老ひまくの百ふのせをうけ うきうき 中布

村ぶらんぬをけの名代 うのこ まの うきうき 筆山

よとくりハ一冊うるも うのこ 嘆 うきうき 中布

娘菜とい種きり海をぞで うのこ うら うきうき 筆山

丙午志つら うのこ 重荷 うきうき けり うきうき 中布

見ぬのち知 うのこ う うきうき 志 うきうき ぶ うきうき 下 うきうき ぬ うきうき 茶 うきうき 中布

喜 うのこ き うきうき り うきうき 志 うきうき の うきうき ち うきうき 洗 うきうき い うきうき と うきうき に うきうき け うきうき 中布

つ うのこ り うきうき く うきうき と うきうき ま うきうき め うきうき ち うきうき り うきうき て うきうき お うきうき ん うきうき ち うきうき 中布

前し部

王よりハ飛車がにげふるゝお素

竜馬

たぬやまこころ目屋(もと)を巻也

下巻

帯又節もえんであり揚り口

四溪

面もりの穴さお膚まつはる

牛喫

緋ちりめん虎の皮よりおそりふ

口徳

七の候洞布欠あてもあふ

玉章

所や一まハ馬傾城ハまつ

夕夕

守のまは所てわけふらふ

玉章

魚つはいハ下女の居眠るうらたて

喜高

いむすめむこハとい(む)八人目

在依こ

源井はあふく定紋つたのねを

おま

十の字のあつとまげると娘がわ

あ夕

漁利とさうきごとト女おあつとる

取夕

けつまづきより不とりてあつとけ

老仇三

買ふくひ茶の焼目ガ口

取酒

おのがつこおの巻とせめる紙帳尻

孫川

園おどろび殿振夜むいなり さらうさ 友裏
此瓶氣のせがれと紙ではくんどく りのい 珠丸
菊切山女房十分指いらさ たまり丸 夢舟
片徳と不どこへ通て下女らうみ 名女 白夕

上之部

縁う敷ゆ樫の次ふハ院の沖而 あらし 孫川
吉彼よりもくもハ日本の海も也 うのこ 聖直
庭つらり殿の脚えて石とま まらね 古香
はくまとい達をまてひくなら さうま 期程
佛立世岐王と妓女ハ尻よま のこ 玉奈
に系よ入り系もがこ死女なる うまうり 笠山
糸系の中うう勅使三度三 さか 玉奈
はくとよりまうやと母おや小う うのこ 綾丸

新の春とび芝の耳をかんよま さくら木

見ゆつてそくもまらぬ能き さくら木

くもの幸もつ品にいと悦のこ さくら木

あせうも回うも母のつて さくら木

春よりも雪ハ不存うま本筋 さくら木

前後十二年干戈とま さくら木

おくうら さくら木

けい さくら木

持世

梅干ハ口とま さくら木

次田所 さくら木

會者定歌 さくら木

雪月花内 さくら木

縁 さくら木

らん さくら木

ラリルレロ さくら木

斤 さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

さくら木

赤く部

思引いたいに捕まハ 禿なり

まろく 砥川

根つきあいた万身やまろく不焚

まろく 砥川

もかど志あふと人ろの虫とつける

まろく 砥川

まもろ赤浅黄ゆもて灼らる

まろく 砥川

竹籠て突つきちろく一まをにきり

まろく マイタ

紅国まいろうむくくやあささう

まろく 焼香

くさためのかくせじんはることうハ

まろく 是乐

むちぢんでこそせのまどいなのよき

まろく 楚花

新草ハおんやううごて星菊んせ

まろく 名本

六味丸のんぢろ例より 廿房

まろく 砥川

毛のまこしりて来る 海匹

まろく マイタ

虫うあつて度かま斤あろドてあけ

まろく カテウ

ハツ色のなうそ 秘巻とて 宿さがり

まろく 小麦

うり物よ 疵うついとやりて 秘ぢ

まろく 玉友

もことうのまこのガト 廿疔 玉

まろく シクト

小使もるたまこけまたまて 切

まろく 斗丸

美申よ 色と去よりの世に 古香
 実がハ杉本流て 中家なり
 行しよ 歌と曾そ外せ 其具
 死ハゆきく 生ハゆきく 隠居がま
 切りが びくく 下女て 赤流る
 秘ぞひ 下女 秘ぞひ 下女 け
 玉麦

よし那

法眼のひ 秘つと 秘ハ 小百 評 玉麦
 安とこめて 南を 西り 市仙 語
 矢の礼 秘ハ 秘ハ 秘ハ 秘ハ
 石山て 出馬と 牛物 の やり 市東
 百首ても 秘仙ても 秘山 乃中 斗丸
 不根と 秘トハ 秘と 秘と 野丸 竹麦

又重と武志城とありをける あしひ 孫川

頼とまのニまうれいハ本柱青 まら 船程

八九合用まき 桃賣つゝあける まら カテウ

一落^ツ虫と^いる^る 徳名とのこ^ー くま 笠山

くもの子のやうに松永うちく丸 まら 喜房

大雲の糸はけ十九てまら^まい まら 夢夏

ニケの津大坂町ハ 廓外 まら 丸柵

師連^々耳たぶちのいと竹俣むき まら 孫川

人^之強を^まま^まと^まの^ま歩^まカ^ま まら 志水

赤^い斗^ま々^ま 赤^い白^い まら 羽程

上^の徳^のの^の一^の里^の一^の字^のの^の宗^の名^のあり まら 中丸

孫^の名^のハ^の掌^の我^の子^の貢^の又^のく^のと^のり まら 虫矢

中^の まら 竹子

ま^のの^のん^の一^のに^の儀^のか^のい^のてる^のハ^のが^の赤^のなり まら マイタ

お^のの^のの^の鹿^の扱^の一^の波^の田^の まら 志水

一本^のと^のか^のく^の一^の子^のる^のよ^の九^の本^のまで まら 虫辰

元勢と云き病も足さし〜んぎも かろい 志夕

羨むもろり後河川て父男 うのこ 翠秋

若衆と云き坊主と云きあさとり うのこ 志心

酒さかりかしく〜せうつく〜 くまう 美文

色の名と娘と沖一や〜うに うのこ 志世

延ませぬ内と沈ふ〜まいて居る うのこ 志世

初之玉流りだんま〜りた〜す うのこ 孫川

よ〜う玉〜第一が〜め〜と〜 うのこ 自夕

私と云ふ〜ま〜お〜り〜 うのこ 吹屋

狼の作事門〜〜 うのこ 泣

義より〜て〜の〜あり うのこ 志世

うけて〜く〜の〜 うのこ 孫川

系譜の因〜 うのこ カテウ

中白〜 うのこ 見本

大月〜 うのこ 可孝

浮際〜 うのこ 女雀

あし邦

病の由はあはれとよしてあめす りのこ 七五子

そとる筈うしくきけり女房なる さうしな 孫川

孝太白を木の酒や切りさけ かのこ 忍我

飯をちうけといとふゆと春入 りさつし 貫流

物いひなむをるとに戸て考ぬま也 まうし カテウ

ふりろを下戸に煮てらふわらぬあ さうしな マイチ

くろろを女房と望と後さけり かうらい 孫川

こも目まなまを足男とあうとぞ さうしな マイタ

見え病もあつたまきと伍子音ひ まうし 現考

寺あうされてありぬ百と足 さうしな 七五子

人先と考と目なる足改の体 らのこ くるを

えをまたて無後をする素一斤 さうしな マイタ

かけとらりあるを服棄うありが りさつし 孫川

まんのづらうハけいりまふふら さうしな 玉孝

下々心考をほまかをせんうひ わしらい 孫川

上総ちり越茶のあが まうし 孫川

江戸橋いぢりまきて巾とゆき のい 吹鹿

ぬけ裏てるのうをかゝ失らんたり さけい本 マイテ

是ハふんぬるをと外科師てる りのこ 吹鹿

之向といふまきとハ下女ぬり さけい本 香櫃

不而なかせのまよこまりひとり 了のあ 板白

つとぬらふ入一十の及色なり ころし本 巾布

上邦 年寄と杖ニ皇后 たてし本 杖ニ

六十ニ九とくけ りの 横好

ゆがたの系ハ日本のま もがら 如丈

めうりのきり かのこ 玉壺

そりぬハ日輝り たてし本 簀山

そりもの重て玉舩 らさる ミシ

けりけの泣貨 たてし本 香欠

あま たてし本 志夕

母のやのせむけかぶりのゆき也 たけふ
 一本を斤身で賣極竹を りのこ
 日なたを母梅のる場わたり りのこ
 仲達いあかひ琴く引くも たけふ
 しの事新巻及と十に於 たけふ
 流るるハ百条流と吹かすれ りのこ
 西宮旅あやうき流々二に本 たけふ
 紀文の女房氣本たうり流く たけふ
たけふ たけふ たけふ たけふ たけふ たけふ たけふ

初唐なりもたし流る己かり合 たけふ
 流るるなる流るる下世の及と りのこ
 流るるなる流るる下世の及と たけふ
 一のりき 石田香車の取一にけ りのこ
 入王又かりてふか梅引て出 たけふ
 草りまも二十余年の取きら たけふ
 ろふまも流るる細んと女房えん たけふ
 又すの櫻と隅えあとのふ たけふ
たけふ たけふ たけふ たけふ たけふ たけふ たけふ

赤ノ卵

女房と一寸と毒づく猪むらじ

なまこまでつらつらひもどかぬ

むらさきの薙も一夜又また新

むらさきの薙も一夜又また新

吉田何うをどとがアアかにかに

新そぞこせかア私ならて二袋

吹くと揃してけきを吸つる

ふらりふらり此世へ去れぬ

うらま

カタル

ふらね

盤詰

うらま

玉葉

うらま

玉葉

うらま

玉葉

うらま

うらま

玉葉

うらま

玉葉

うらま

玉葉

うらま

玉葉

うらま

玉葉

十會目

武と御方ニ云々との 汗必なり

つらは
むね

天帝一道のまゝとゆくりまゝ

うのこ
琴丸

九月、夏の日ぞはせせりか

かき
記

清足院のまゝ一徐後院をつけ

うのこ
琴丸

新改をまゝ後ろ月清く清くを

さき
琴丸

と情とあす条うかいつゝ法

あつら
琴丸

肩すきとせして信巴の縁をつけ

さき
琴丸

ふ十日宛ふ川月とるる所

あつら
琴丸

祐天ちりごまの根とかがまをせり

あつら
琴丸

己の日の志のむす年の日の志のぶち

あつら
琴丸

うのたへて曹く幾と切くを

あつら
琴丸

やろくまのほとひさやせり

あつら
琴丸

殿権と梓屋仕立よ妻すけ

あつら
琴丸

七分のたぬしよ大キな御座り

あつら
琴丸

系乃りついでハ猫もけかす

あつら
琴丸

棟梁り翁と坊のハやそ香

あつら
琴丸

四つものせとめと知恵とはけ さうま 中布

江口は佛も一度継ちりめん きまつて シット

下は柄棋をたしんと角とが さうま 西夕

お寺の跡で母は一匹くそと さうま ヒッ

中ノ部 さうま 玉ま

お寺がまた家名ハ六席を うのこ 玉ま

席平くうさやいと臣お さうま 孫川

一がハ柄ごご六が さうま 古も

おごり さうま 焚雀

玉を さうま 望岩

はん さうま 中布

ちやる さうま カテウ

兼 さうま 撲好

不 さうま シクト

た さうま 機丸

仲 さうま 孫川

かか棒で由緒印し地地しし
女房いよいよのやいとまきま
うのこ 玉衣

二八月 髪を巻の巻もわさる
ゆきとりかんはり 飯 ちんバ女房
うのこ 登城
めいやく
マイタ

おやまじき夜やうとさ
はとよて十六町の女なり
うのこ 西夕
佐東

ののびと おもぬくとみひ人
貸りるので 養男とまが後
うのこ 花夕

夕玉のやうにやうとをわしひか
減やよとえる事 せげんよあうど
うのこ 有重
孫川

韓信うわいまのうして一ツ印
合のよの舟の色がまア 娘たこ
うのこ 孫川
孫川

桑平の靴で のきむらひ 妻あり
べうとせなかつかそあうし
うのこ 孫川
孫川

法おのぢるあよあおのいんびのま
うのこ 百仁
シクト

アんぬ 門院とまうしーい女や
うのこ

内出や〜古伝の若画して大わ〜
 ちぬき〜うぶきで若代とあ〜
 ほん〜〜〜能で〜目がまり〜
 様〜縁前〜〜ぬ〜〜い〜下女
 た〜〜〜乳母〜み〜
 も〜〜〜〜〜
孫川
孫川
孫川
孫川
孫川
孫川
孫川

柳摺三十五篇終

